

## 81. ギヨーム＝アンドレ・ヴィロトー著『アラブ音楽事典』の研究－アラブ音楽概念と民族音楽学の形成過程の解明

国立民族学博物館 特定教授 西尾 哲夫

### 概要

本研究は、ナポレオンのエジプト遠征に同行した学者団の一員、ギヨーム＝アンドレ・ヴィロトー（Guillaume-André Villoteau, 1759～1839）が当時のエジプトの音楽について調査し執筆した、ナポレオンによる歴史的大著『エジプト誌』の音楽項目に掲載された論考の草稿あるいは資料にあたる、未刊行の遺稿『Dictionnaire de musique orientale contenant l'explication de tous les termes en usage dans la musique arabe, turke, persanne, indoue d'après les meilleurs auteurs orientaux.』（以下、『アラブ音楽事典』）を分析して刊行することを目的とする。

この目的を達するため本研究では、（１）『アラブ音楽事典』の校訂作業を完了し、（２）索引作成の作業をおこない、（３）『エジプト誌』の内容との比較分析からより正確な校訂文を作成し、（４）校訂作業に必要な情報収集のための海外調査をフランス国立図書館とブリュッセル楽器博物館でおこなった。同調査によって判明した特筆すべき事項としては、ヴィロトーが『アラブ音楽事典』を執筆するのに参考資料とした写本５点を同定することができた。また『アラブ音楽事典』および『エジプト誌』の記述や図版と比較し、ヴィロトーがエジプトより招来した楽器のなかで、現存する６つの楽器を同定することができた。

『アラブ音楽事典』の校訂テキストの出版については、本書のテキスト校訂を完成させてフランスの出版社から刊行することによって、他の文献には言及のない時期の中東地域の音楽、特に民衆・民俗音楽についての研究だけでなく、民族音楽学の歴史的研究ひいては音楽史研究全体に貢献できる。

### 背景および目的

ナポレオンのエジプト遠征に同行した学者団の一員、ギヨーム＝アンドレ・ヴィロトー（Guillaume-André Villoteau, 1759～1839）は当時のエジプトの音楽について調査し、その成果は、ナポレオンが刊行した歴史的大著『エジプト誌』の音楽項目に掲載された。『エジプト誌』における彼の記述は添付された図版資料ともども、きわめて正確で優れた民族音楽のエスノグラフィーとなっている。オペラ座の歌手だったヴィロトーは、異文化体験が契機となって他者の音楽文化にふれた音楽家として、自らの基盤である西洋の音楽世界の論理をもってアラブ音楽の解明を試み、新たな研究領域である民族音楽というジャンルを生み出した。彼が「民族音楽学の父」とも称されるゆえんである。

ヴィロトーの未刊行の遺稿である『Dictionnaire de musique orientale contenant l'explication de tous les termes en usage dans la musique arabe, turke, persanne, indoue d'après les meilleurs auteurs orientaux.』（以下、『アラブ音楽事典』）は、彼が『エジプト誌』を書いた時の草稿かその資料集にあたり、それらの一次資料を辞書形式でまとめたデータ集であり、既に伝統としては失われた当時の中東世界の音楽に関する貴重なフィールド調査の情報を含んでいると同時に、アラブ音楽というものを総覧するために編纂したもので、世界最初のアラブ音楽事典と言っても過言ではない。『アラブ音楽事典』には『エジプト誌』にない貴重な情報が含まれ、近代的な意味での「アラブ音楽」という概念が「アラブ」という民族概念と並行して西洋との交渉の中で醸成する19～20世紀初頭の中東世

界における「民族音楽研究」の嚆矢となる文献である。本研究では、この手稿本を分析して刊行することを目的とする。

## 実施内容

本研究では以下のことを実施した。

- (1) ヴィロトー著『アラブ音楽事典』の校訂作業については、フランス語とアラビア語による本文テキストの校訂作業を完了した。
- (2) 上記校訂テキストの索引作成作業については、ヴィロトーが利用したアラビア語文献ならびにヨーロッパ語文献の目録を作成し、アラビア語音楽用語ならびにフランス語音楽用語の索引、人名や地名等にかかる索引を作成する準備をおこなった。
- (3) 『エジプト誌』に記載された内容との比較分析作業については、『アラブ音楽事典』は、ヴィロトーによる『エジプト誌』の音楽項目と補完関係にあると推定されるので、両者の内容を比較分析してより正確な校訂テキストを作成した。
- (4) 上記校訂テキスト作成に必要な情報収集のための海外調査については、①ヴィロトーがエジプトで収集したアラビア語による音楽文献の所在確認をフランスの国立図書館等でおこない、テキスト校訂作業の補完データとして分析し、②ヴィロトーがエジプトで収集した楽器の一部は現在ベルギーのブリュッセルにある楽器博物館に所蔵されており、校訂テキストにおける記述と照らし合わせながら分析した。
- (5) ギヨーム＝アンドレ・ヴィロトー著の上記の校訂テキストの出版については、本書のテキスト校訂を完成させてフランスの出版社から刊行するための準備中である。

## 研究成果と今後の課題

### 1. フランス国立図書館における調査結果

特記すべきこととして、フランス国立図書館の手稿本部門にて、ヴィロトーが『アラブ音楽事典』を執筆するのに使用した参考文献の調査を実施したところ、以下の5点の文献を同定することができ、それらの写本に書かれている内容と照合することができた。

#### (1) アラビア語写本 « Arabe 2865 »

ヴィロトーの『アラブ音楽事典』のなかで、「Manuscrit 1054」としてもっともよく引用されている写本の一つである。現在の整理番号は« Arabe 2865 », 以前の整理番号はそれぞれ、「Ancien fonds arabe 1054 », « 966.7.7 (Regius) », « Colbert 6007 »となっている。15世紀から16世紀にかけて書かれた、18センチ×13センチの大きさの75枚の紙で構成された、いくつかの写本の合本になっている。ヴィロトーが参照した音楽に関する写本は2番目に収録されている「ある音楽論の断片、いくつかの表を含む (Fragment d'un traité de musique, avec plusieurs tableaux)」に該当する。

#### (2) アラビア語写本 « Arabe 2480 »

『アラブ音楽事典』のなかでヴィロトーが主に使用した写本の一つである。以前の整理番号は« Ancien fonds arabe 1214 », « 1146 (Regius) »となっている。Saydaouy (サイダーウィー) によって書かれた16世紀の写本で、21センチ×17センチの大きさである。使用言語はアラビア語およびペルシア語となっている。1672年4月に、ドイツ人のドメニコ会士 Michel Vansleb が1.6ピアストルで購入した。前半の「« Traité qui fait connaître les modes de la musique », par Schams al-Dîn al-Şaïdâwî, de Damas」の部分が該当する。

#### (3) フランス語写本 « NAF 8942 »

前項の Saydaouy による写本のフランス語訳である。コレージュ・ド・フランスのアラビア語教授だった Leroux-Deshauterayes (1724-1795) の文書の中に収録されている。フォリオ 263 の「« Traduction d'un ms. arabe... touchant la connoissance des tons,... par Schamseddin al Saidaoui al Damaschki »」が該当する。

#### (4) トルコ語写本 « Turc 198 »

『アラブ音楽事典』のなかで引用されているトルコ語の百科事典である。以前の整理番号は「Regius 1300, 3」だが、ヴィロトーの時点ではすでに「Turc 198」になっている。アラビア語の百科事典 (Les objets des sciences) をトルコ語に訳した 17 世紀初頭の写本である。図書館内で閲覧し、写真を撮影した。この作品はデータ化されていない。

(5) トルコ語写本 « Turc 243 »

『アラブ音楽事典』の余白で数回引用されている Abdel Moumen の著作である。25 センチ×17 センチの大きさの 34 枚の紙で構成された、1538～1539 年に筆写された音楽論の写本である。

(6) ヴィロトーの『アラブ音楽事典』で用いられている主な写本には、Nichapoury の音楽論があるが、今回の調査では発見できなかった。



図 1. ブリュッセル楽器博物館での調査風景。

## 2. ブリュッセル楽器博物館における調査結果

ブリュッセル楽器博物館において、学芸員の Saskia Willaert 氏と情報交換をおこなった。ヴィロトーがエジプトから持ち帰った楽器については、何人かの手を経たのち、サクソフォーンなどの楽器を考案したことでも知られる Adolphe Sax (1814-1894) が所有していた。Sax が所有していた様々な楽器は 1877 年に競売にかけられ、競売カタログによるとそのうち 22 点が「ヴィロトー・コレクション」とされている。競売カタログによるとそのうち 11 点については「ヴィロトーによりもたらされた」とされているが、『エジプト誌』の内容と照合した結果、そのなかにはヴィロトーがエジプトから持ち帰ったものではない楽器も含まれていることがわかった。

ブリュッセル楽器博物館には、ヴィロトーがエジプトから持ち帰ったと特定できる 4 点 (Arghul, Nay, Zamr, Eraqyeh) の楽器が所蔵されており、実物を熟覧して調査をおこなった。尚、現在ヴィロトーについての研究書としては、Paul-Marie Grinevald の著作のみが挙げられる状況であるが、Willaert 氏との情報交換の結果、ブリュッセル楽器博物館にヴィロトー所有の楽器がもたらされた経緯など、誤りが多いことが判明した。

## 3. 今後の課題

本研究が当初目的としていた写本類の同定作業をするなかで、当該写本の来歴や他の文献への引用が明らかになり、ヴィロトー以前のフランスにおけるアラブ音楽、あるいは中東地域の音楽に関する情報の流通を解明する必要が生じたが、今後の研究課題としたい。またこれに関連して、ヴィロトーが当時の関係者とやりとりをした書簡が存在することも今回の調査で判明したが、ヴィロトーという民族音楽学者の形成過程を解明するためにも調査を続行したい。

本研究は最終的に、『アラブ音楽事典』の校訂テキストを出版し、その内容をヨーロッパにおける中東地域の音楽に関する研究史に関連させながら分析することによって、他の文献には言及のない時期の中東地域の音楽、

特に民衆・民俗音楽についての研究だけでなく、民族音楽学の歴史的研究ひいては音楽史研究全体に貢献することを望む。

最後になったが、ブリュッセル楽器博物館学芸員の Saskia Willaert 氏に感謝の意を述べておきたい。

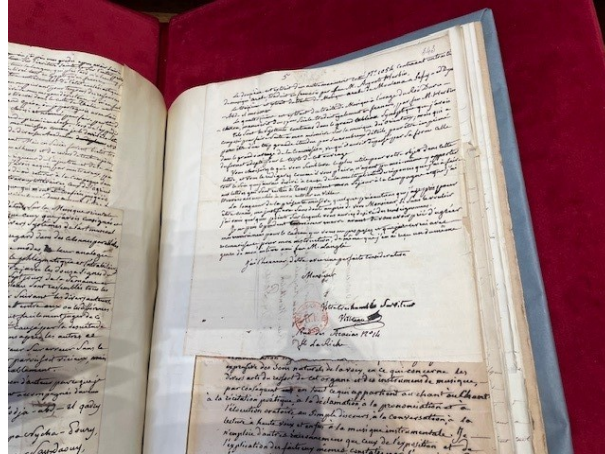


図 2. フランス国立図書館所蔵ヴィロトーの書簡。

(完)

## 研究発表

### 1) Tetsuo Nishio

Conférence d'ouverture “How and Why does Narrative Manifest Itself in Terms of the Relationship between Language and Music: Toward a New Approach for the Origins of Language and Music in human history”  
International symposium, 26-27 February, 2026. *Language and music in rituality, physicality and environment: toward an integrated approach for considering the origins of narrative within human history / Langage et musique dans la ritualité, la physicalité et l'environnement : vers une approche intégrée pour envisager les origines du récit dans l'histoire humaine.*

Organized by JSPS-KAKENHI in collaboration with École pratique des hautes études (EPHE)

Venue: Collège de France – Institut des civilisations

## 引用文献

- 1) *Catalogue du musée instrumental de M. Adolphe Sax : collection unique d'instruments de musique de tous temps et de tous pays* : vente à Paris, 13 novembre 1877, Me Gustave Carré, commissaire-priseur (Paris, 1877)
- 2) Paul-Marie Grinevald, *Guillaume-André VILLOTEAU (1759-1839) - Ethnomusicographe de l'Égypte* (Paris : L'Harmattan, 2018)